しちょうれん 市町連だより

第47号
令和２年11月１日
発行責任者
千歳市町内会連合会
会長　沼田常好
千歳市幸町４丁目30
中心街コミセン内(千歳タウンプラザ3F)
TEL.0123-49-7100
印　刷
千歳印刷株式会社

令和２年度　市町連定期総会

令和２年度の市町連定期総会は、コロナ禍の中、理事会において重点的に審議を行うことを前提として書面会議で開催（書面表決日６月６日）しました。

理事会においては、一部書面会議で開催したほか、役員改選に係る審議については、ソーシャルディスタンスを確保するなどの対応を行いながら慎重に会議を開催しました。

報告事項は、令和元年度事業報告、一般会計・特別会計収支決算報告、監査報告となっており、審議事項は、令和２年度事業計画案、一般会計・特別会計収支予算案、規約の一部改正及び役員の改選について、１４７町内会・自治会中、１３３件の表決があり、このうち承認が１３３件、不承認が０件で議案について全て原案どおり承認されました。

令和２年度
定期総会議案書
開催日時：令和2年6月6日（土曜日）⇒書面会議による。
開催場所：
千歳市町内会連合会

1．報告事項

報告第１号　令和元年度　事業報告
報告第２号　令和元年度　一般会計収支決算報告
報告第３号　令和元年度　特別会計収支決算報告
報告第４号　令和元年度　監査報告

2．審議事項

議案第１号　令和２年度　事業計画（案）
議案第２号　令和２年度　一般会計収支予算（案）
議案第３号　令和２年度　特別会計収支予算（案）
議案第４号　規約の一部改正について
議案第５号　役員の改選

規約改正の主な変更点

・各専門部会相互、また三役会との連携を図り、より充実した事業運営を行うため、部会長会議を設置しました。

・市町連の運営方針に沿って専門部会をさらに活性化するため、専門部会長は、会長及び副会長が指名し、理事会の承認を得て選任することとしました。

役員の改選について

・２年ごとの改選時期に当たり、新たに33名の理事が選任（再任を含む。）されました。

・新理事の中から役員選考委員会での選考を経て、会長、副会長及び監査が選任されました。

会　長　沼　田　常　好（再任）
副会長　荒　　洋　一（再任）
副会長　川　端　　清（再任）
〃　丸　山　成　士（新任）
〃　西　村　宏　子（新任）
監　査　宮　本　眞　弘（再任）
〃　濱　　勝　久（再任）

千歳市長感謝状贈呈及び千歳市町内会連合会会長表彰について

例年、総会に引き続き開催している贈呈式及び表彰式が中止となり、市長感謝状については千歳市の澤田市民環境部長が、市町連会長表彰については沼田会長はじめ事務局長並びに事務局次長が各受賞者宅を訪れ贈呈を行いました。

・千歳市長感謝状受賞者

（町内会長在職10年以上）

小泉義隆（若草）
伊藤宏之（柏陽）
供野靖史（新富中）
山崎昌則（豊里）
五十嵐桂一（清水町１丁目）
徳永州雄（栄町東）

・千歳市町内会連合会会長表彰受賞者

（町内会役員在職10年以上）

松橋文行（あけぼの団地）　他61名

（敬称略、順不同）

令和2年度　町内会活性化支援事業

ちとせ町内会活性化セミナーを開催

～アフターコロナにどう立ち向かうか？～

千歳市から委託を受けている今年度の町内会活性化支援事業において、8月22日（土）に中心街コミュニティセンターにて「ちとせ町内会活性化セミナー」を開催しました。（参加者45名。オンライン参加含む。）セミナーでは、「アフターコロナの地域コミュニティ」をテーマとして、酒本講師（㈱KITABA：事業受託者、取締役会長）より「新型コロナウイルス感染拡大に伴う町内会活動等に係るアンケート調査」の結果報告とアフターコロナやWithコロナの視点から考えるこれからの町内会活動について話題提供が行われました。

アフターコロナの地域コミュニティでは、「在宅ワークによって会社への帰属意識が弱くなり、新たに社会と関わりを持ちたくなる人も増えることが予想され、町内会など地域コミュニティでは、こうした人が活躍できる機会と場を提供することが求められる。仕事や学校の授業はオンラインになり、インターネットを活用する世代との分離が生じないよう、コミュニティの活動もオンラインを取り入れることが求められる」といった指摘がありました。コロナ禍で不要不急の外出を避けると「孤独」を感じる人が増えるため、町内会でのサポートも必要とのことでした。

アフターコロナの町内会の処方箋としては、多様なコミュニケーションツールへの転換として回覧板に併せてオンラインでの情報提供に対応すること、情報発信は、役員自らが担当するのではなく、多世代の多様な立場の人たちをつなぐコミュニケーターの役割を担う人を置くことや、さらにこれまでの町内会ではあまり見られなかった「情報広報部」を設置するといったヒントが示されました。

今後の町内会活性化支援事業では、モデル町内会での活性化手法の検討に併せ、「担い手不足への対応」、「若い世代との連携」をテーマとしたセミナーを開催する予定です。

【アンケート結果の概要】

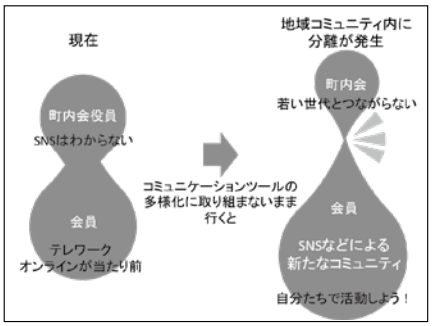
（146町内会中80町内会から回答）

コロナ禍での総会の開催は、「書面会議」が8割弱と最も多く、次に「例年通り集まって開催した」が約2割となっています。

自粛要請期間の回覧板については、「回覧した」が約8割（65町内会）と最も多く、次に「中止した」が1割強（11町内会）となっています。

今後の回覧板のあり方については、「回覧板を継続する」が8割（64町内会）と最も多く、次に「回覧板（紙ベース）を廃止する」が約1割（7町内会）、「メール（SNS）等を併用する」が2町内会となっています。

メールやSNS等の活用に関しては、「必要性を感じていない」や「活用が難しい」といった意見と「今後に活用」といった意見が分かれる結果となりました。活用が難しい理由は、主にネット環境が整っていないことや高齢者が多いことが挙げられています。



カルビー㈱北海道工場 様から操業50周年を記念して

ポテトチップスをご寄贈いただきました!!

カルビー㈱北海道工場様から、今年で操業50周年を迎えたことを記念し、近隣の皆様への感謝の気持ちとして、ポテトチップス8,000袋を市町連にご寄贈いただきました。6月22日に同社の戸田和代工場長が市町連を訪問され寄贈されたもので、同工場長からは、「地域と共に発展してきました。これからも長く愛される商品を作っていきます。」とのメッセージをいただきました。

市町連では、戸田工場長様からのお礼の文書を添えて7月13日から各町内会・自治会にお配りすることとし、31日までに配布を終えたところです。

各町内会・自治会からは、「子どものいる世帯に配布した」、「コロナ禍で多くのイベントが開催できない中、抽選会だけを開催し、賞品として活用させていただいた」、「資源回収時のお手伝いのお礼として使わせていただく」などの声が寄せられています。

ご寄贈をいただきましたカルビー㈱北海道工場様に心よりお礼を申し上げます。

あなたの町内会・自治会 トピックス

みんなで取り組む安心づくり

～旭ヶ丘町内会 黄色いハンカチ作戦～

旭ヶ丘町内会では、災害時に役員が町内の見回りを迅速に行うシステム「黄色いハンカチ作戦」を展開中です。災害時に救助や支援の必要がなく自力で対応可能な世帯は、屋外から見えやすい場所に黄色いハンカチを掲げることにより、戸外に安全を知らせます。救助等を求めたい場合や求めたくてもハンカチを掲げられない場合は、戸外から黄色いハンカチが確認できないこととなり、役員は優先して安否確認を行います。迅速な救助につながることから、被害の低減につながるものと期待されています。

黄色いハンカチ作戦には2年前の胆振東部地震の経験が活かされています。当時、深夜のブラックアウトの中、役員は総出で要援護者の世帯を訪問し安否確認を行いました。この行動は会員から感謝が寄せられましたが、確認に1時間以上の時間を要し大変苦労したことは、地震後の反省会で町内会全体の課題とされました。役員から、東日本大震災時に勇気をくれた陸前高田市の黄色いハンカチのエピソードをヒントに安否確認に活用できないかとの発言があり、防災部（小林秀辰部長）を中心に作戦が開始されました。救助等を求める世帯が黄色いハンカチを掲げるのではなく、安全が確保できている全世帯が掲げるという発想は「旭ヶ丘方式」であり、町内全体で防災に取り組む姿勢の表れと言えます。

作戦の第一は、全470世帯分の黄色いハンカチを用意することです。単に購入するのではなく、町内で一枚一枚手づくりする方針としました。会員が自ら黄色いハンカチを作り上げたという経験は、きっと町内の結びつきに良い影響を与え、ハンカチを大切にし、その意義を長く伝えるための意識づくりにつながると考えたからです。

地域の役に立てればとハンカチづくりに名乗りを挙げたのは、高齢者クラブの祝寿会（清水久子会長）でした。今年度当初から、毎週少しずつ、裁断、縁の折返し部分のアイロンがけ、フックの取付けとミシン縫いの工程を役割分担して仕上げ、12月までに500枚の完成を目指しています。

作戦の第二は、訓練です。ハンカチを全世帯に配っただけでは非常時に機能するか分かりません。何より作戦の目的を果たすには、救助等の必要のない世帯は全て黄色いハンカチを掲げることが求められているのです。黄色いハンカチを全世帯に配布次第、本年度末に日時を設定し、全世帯参加でハンカチ掲揚、安否確認、救助と避難所誘導などの訓練を行い、以後、継続して実施する予定としています。

旭ヶ丘町内会でこのような取組みが進んでいることについて山口満総務部長は、「近隣町内会と連携して祝梅小学校圏避難所運営準備委員会を組織し、毎年、避難所開設に関連する訓練を行っていることなど、この地域には防災を意識する土壌が育っている」と説明します。

「黄色いハンカチ作戦」は自主防災上画期的で新しい取組みですが、北海道は黄色いハンカチの物語が生まれた土地であり、手づくりのハンカチが長く受け継がれ、町中に安心の黄色が溢れる光景を思い浮かべると、また、たくましく、美しい取組でもあると思います。

あなたの町内会・自治会のトピックスをお寄せください

市町連では各町会・自治会の独自の取組を募集しています。活動の参考として、防災活動や高齢者の見守り、回覧板の回覧手法、ITの活用事例など、市町連だよりやホームページでも紹介していきます。

■連絡先：市町連事務局
電話 0123-49-7100　FAX 0123-49-7300
Eメール：shicyoren@city.chitose.hokkaido.jp

事務局通信

オンライン会議一考

いつも市町連の活動にご支援、ご協力をいただきありがとうございます。コロナ禍の状況にあって、昨今、各職場やテレビ現場においても盛んに行われているオンライン会議について、事務局でも試してみましたのでご紹介します。

オンライン会議は、インターネット（ライン＝有線、無線）を介して（オン＝上で、乗せて）、離れた場所にいる参加者が映像や音声をパソコン等に映し出して会議を行うものです。インターネットにつながっているパソコンやスマホなどに会議用のアプリ（アプリケーションの略＝コンピュータに作業を行わせるプログラム・命令）を設定する必要があります。

事務局では、無料で利用できるいくつかのアプリ（インターネットからダウンロード・設定）を試し、操作が分かりやすく、参加者同士で資料（パソコン上のデータ）のやり取りがスムーズだった「ＺＯＯＭ（ズーム）」というアプリを使って会議を行いました。

最初は、毎月初旬に開催している会長と事務局（計４名）との打合せ会議をオンラインで行いました。事前に「ＺＯＯＭ」アプリを会長と事務局２名のスマホに設定し、他の事務局１名はパソコンにアプリを設定しました。

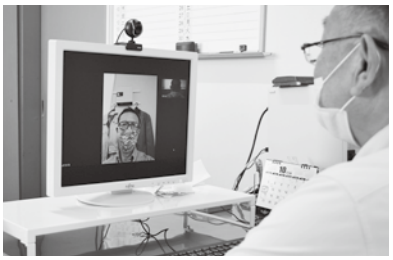
会議の開始は、あらかじめ日時を設定（電話やメール等で連絡）し、パソコンから「ＺＯＯＭ」のメール機能で参加者（会長と他の事務局２名）のスマホに会議への招待メールを送りました（スマホでも招待メール可能）。参加者はメールに記載している会議のリンク（その会議を表すコード）をクリックする（押す）だけで、会議の画面が映し出され、映像と音声をお互いに送信する操作（顔を映さないことも可能）により会議を開始することができました。

このほか、町内会活性化支援業務として８月22日に開催した「ちとせ町内会活性化セミナー」の事前打合せで、千歳市役所、市町連事務局、㈱ＫＩＴＡＢＡ（活性化事業受託者・札幌市）の三か所をつないで会議を行ったほか、同活性化セミナーにおいても、市内の方々や仙台市役所の職員がオンラインで参加しました。

オンライン会議は、パソコンやスマホの文章や写真などもお互いに見せ合うことができるほか、その場で入力した文字やイラストを共有することも可能なため、多くの会議で活用ができます。

また、昨今のテレビ番組ではスタジオの出演者とは別に遠隔地からオンラインで出演される方がいるように、例えば、各町内会の役員会などにおいても、全員がスマホ等の機器を準備する必要はなく、会館に集まれない方のみオンラインで参加するといった併用方式が有効ではないかと感じたところです。

オンライン会議を一度経験してみたいと考えている方は事務局に是非ご相談ください。



コラム

町内会って何だろう？

町内会や自治会は、地域を美しく住みよくしたい、子どもたちやお年寄りが健やかに過ごせる環境をつくりたい、みんなが安心・安全に暮らせる地域にしたいといった誰もが願う基本的な生活環境を実現するため、地域住民が協力して環境美化や防災・防犯、福祉からスポーツ・文化活動などの交流イベントに至るまで、生活のあらゆる分野にわたって自発的に活動を行う住民団体です。

具体的には、①ゴミステーションの設置・管理、②街路灯の維持・管理、③道路等の除排雪、④町内の清掃、⑤公園の草刈り、⑥緑化・花植え活動、⑦防災・防犯・防火の取組、⑧資源回収を通じてのリサイクル活動、⑨交通安全や通学路の見守り、⑩高齢者への声かけと健康づくり、⑪おまつり・盆踊り・新年会などの開催、⑫子ども会やスポーツ大会、⑬文化サークルなどのほか、⑭お知らせの回覧、⑮町内だより等の発行、⑯市広報誌の配布といった広報活動や⑰町内会館の運営などを行っています。

町内会・自治会が取り組むこれらの活動は地域の美化や安心・安全につながり、活動の過程で会員同士の信頼や連帯が生まれ、自然にその地域を「住みやすい」と感じたり、「愛着」を持つといった感覚が育まれていくのではないでしょうか。

ホームページについて

市町連では、ホームページを開設しています。各町内会（みどり台南、文京１丁目、春日町３丁目、末広中区、白樺、住吉北）もホームページを開設しており、市町連のホームページとリンクしています。活動の参考に是非ご覧ください。

URL：https：//chitose-choren.jp

編集後記

今年は新型コロナウイルス感染症の影響から東京オリ・パラ延期、町内会はじめすべての行事も中止。

この後も自然災害、コロナそしてインフルエンザと油断できません。一日も早く「新しい生活様式」を身に付け、アフターコロナでも以前のように活発な町内会活動を続けたいものですね。市町連も皆さんのその活動をしっかり支えながらこれからも市町連改革を進めてまいります。